

8804 ニューヨーク特派員をしていた 1969 年のこと・・・

ニューヨーク特派員をしていた 1969 年のことである。東京で知り合いだった歌手志望の若い女性が、ブラジルでの一年の修行を終えていよいよレコード界にデビューするために帰国することになり、その途次、私を訪ねて来た。

門出を祝ってあげようと、私は高級に属するレストランに夕食のテーブルを予約した。彼女は本格的なイブニング姿で現れた。それがどうやら間違いのもとだったようである。

本田 靖春『新・ニューヨークの日本人』

[許容訳例]

It happened in 1969 when I was in New York as a correspondent. There was a young woman, an aspiring singer, whom I had got acquainted with in Tokyo. She had finished one year of training in Brazil, and stopped over in New York to visit me on her way back to Tokyo to make her recording debut.

I booked a table for dinner at a high-class restaurant, thinking to wish her luck. She appeared in full evening dress. That seemed to have been the beginning of the trouble.

[翻訳例]

It happened in 1969, when I was a correspondent in New York. There was a young woman, an aspiring singer, whom I'd known in Tokyo, was going back to Japan to make her recording debut after a year's training in Brazil, and dropped in to see me on the way.

With the idea of celebrating the beginning of her professional life, I reserved a table for dinner at what you might call a first-class restaurant. She turned up in full evening dress. That, it seemed to me, was the start of the trouble.

■ニューヨーク特派員をしていた 1969 年のことである。(8804)

★「ニューヨーク特派員」は correspondent か special correspondent です。

◆補語になる名詞の「無冠詞」と「不定冠詞」(ニューヨーク特派員をしていた)

「ニューヨーク特派員をしていた」ですが、この書き方は、ある雑誌なり新聞、あるいはテレビなどのニューヨーク特派員をしていたということで、特派員としてたまたまニューヨークにいたということではありません。その場合は I was correspondent in New York. と無冠詞です。この場合、無冠詞の correspondent は、すでにわかっている組織なり団体、つまり、自分の勤めている会社での肩書き・身分を表すことになります。文法書では「(通例一人で占められる) 役職を示す語が、補語になる場合、as に続く場合は無冠詞」と説明されています。江川氏の『英文法解説』では She acted as (an) interpreter at the international conference. という例を載せています。(an)が微妙です。もし I was a correspondent in New York. とすると「ニューヨークである会社の特派員をしていた」ということになります。ま

た「ニューヨーク特派員」は New York correspondent と書くこともできます。この場合は I was a New York correspondent. と不定冠詞が必要になります。意味は「ニューヨークにはいろいろな新聞・雑誌・テレビなどの特派員が来ているが、その中の一人だった」ということになります。ここで使っても間違いではありませんが、ちょっと曖昧な感じです。

★「1969年のことである」は It happened in 1969…がいいです。It was in 1969…でも間違いではありませんがちょっと弱い感じがします。

■東京で知り合いだった歌手志望の若い女性が、ブラジルでの一年の修行を終えていよいよレコード界にデビューするために帰国することになり、その途次、私を訪ねて来た。

(8804)

★「東京で知り合いだった」は「東京で～と知り合った」(I got acquainted with ~ in Tokyo) より時間的に古いので I had got acquainted with ~ in Tokyo でもいいですが、「知り合いだった」ですから、正確には I'd known [been acquainted with] ~ in Tokyo です。

★「歌手志望」は an aspiring singer でしょう。「志望の」には would-be もありますが、これはちょっと軽蔑が入ります。ここでは使えません。

★「若い女性」は a young woman です。a young girl では幼すぎます。後の「本格的なイブニング姿」と合いません。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(東京で知り合いだった歌手志望の若い女性)

「東京で知り合いだった歌手志望の若い女性」には「連体修飾節」と「隠れ連体修飾節」(の→である)」が含まれています。つまり「連体修飾節(東京で知り合った)＋隠れ連体修飾節(歌手志望である)＋体言(若い女性)」です。英語では「名詞(a young woman)＋関係詞節(who was an aspiring singer)＋関係詞節(whom I'd known [been acquainted with] in Tokyo)」ですが、前の関係詞節は「同格」なので「名詞(a young woman, an aspiring singer,)＋関係詞節(whom I'd known [been acquainted with] in Tokyo)」と処理することが出来ます。

★「ブラジルでの」は in Brazil です。

★「一年の修行」は a year's training か one year of training です。なお、one-year training は駄目です。これは、たとえば、一年とか二年とかいろいろな training がある中の one-year training というのを終えてきたという意味になります。この「一年の修行」はそういう意味ではないと思います。

★「ブラジルで一年の修行を終えて」は after a year's training in Brazil ですが、she had finished one year of training in Brazil でもいいです。

★「いよいよ」は強いて訳す必要はないと思いますが、「いよいよ」の感じを特に出したい場合には long-awaited を入れればいいでしょう。

★「レコード界にデビューするために」は to make her recording debut です。

★「帰国することになった」は was going back to Japan でしょう。

● [り] (動作順次)

「帰国することにな [り]」は「動作順次」ですから and でつなぐことになります。

★「その途次」は on the way とか on her way back to Tokyo [Japan]でしょう。

★「私を訪ねて来た」は stopped over in New York to visit me とか dropped in to see me くらいです。なお、「訪ねて来た」は came to see me も使えます。

●原文（・・・することになり）を忠実に訳す

「～後・・・するために帰国することになり、その途次、私を訪ねて来た」は簡単にすると「～後・・・するために帰国の途中に私を訪ねてきた」ですが、原文の「・・・することになり」を処理すると「～後・・・するために帰国することになっていて」(was going back to Japan to... after ~)「その途次、私を訪ねて来た」(and dropped in to see me on the way)となります。

■門出を祝ってあげようと、私は高級に属するレストランに夕食のテーブルを予約した。(8804)

★「門出を祝ってあげようと」は簡単には thinking to wish her luck とか, thinking to celebrate her new start とかですが、前後の文脈情報を加味すると with the idea of celebrating the beginning of her professional life でしょう。

★「高級に属するレストランに」は簡単には at a high-class [top-class; top-ranking] restaurant ですが、「～に属する」というのは、ちょっと遠慮した言い方というか、つまり、「まあ、自分で言うのも何だが一応高級と言ってもいい」という感じなので at what you might call a first-class restaurant とするといいでしょう。なお、high-ranking はほとんど「人」に対して、たとえば、high-ranking officers [officials]のように使うので、ここでは避けた方がいいです。

★「夕食のテーブルを予約した」は booked [reserved] a table for dinner です。なお、a dinner table とは普通言いません。

■彼女は本格的なイブニング姿で現れた。(8804)

★「本格的なイブニング姿で」は in full evening dress です。辞書には「本格的な」に full-scale が出ているので in full-scale evening dress も可能です。なお、evening dress は普通、Uncountable で使うので、たとえば、a full-scale evening dress など不定冠詞を付けると、いかにも scale の大きい服を一着きていたという感じになります。不定冠詞は不要です。

★「現れた」は appeared でもいいし、また、「やってきた」という感じで turned up でもいいです。

■それがどうやら間違いのもとだったようである。(8804)

★「それがどうやら・・・だったようである」は That seems to have been...でもいいし、it seems to me を挿入的使うといいでしょう。

★「間違いのもと」は the beginning [start] of the trouble でしょう。ここではどういう「間違い」なのかわかりませんが、「何か原理原則に反した誤り」(mistake)ととるよりは「困ったこと・厄介なこと」(trouble)の方がいいと思います。